

1 対象

教職員

2 ねらい

読み書きに困難のある子どもの「学び難さ」に気づき、理解を深める。

3 準備するもの

○ワークシート1、2、3 ○参考資料

4 解説

知能や聞いて理解する能力には問題がないとしても、読み書きに特に困難を示す発達障がいの一種に、発達性ディスレクシアがある。練習しても音読ができないとか、音読ができたとしてもスピードが遅いとか、漢字や仮名の形を思い出すことが難しい場合もある。

教員の多くは、文字が読めることが普通だから、誰でも自分のように読めるものだと思いがちである。読みづらい人がいるとは、なかなか想像できないのではないか。このワークでは、錯視※1と疑似的に作った発達性ディスレクシアの人の見え方※2を体験し、「学び難さ」に気づき、理解を深め、自分が普通だと思っていることが、そうではない児童・生徒がいることを感じてほしい。

※1 ワークシート2について・・・錯視とディスレクシアの関連については学術的な裏付けはなく、錯視とディスレクシアとは関係なく、単なる差し絵として作者から使用許可を頂いたものである。あくまでも、場をあたためるアイスブレイキングであるということと、見ているものが歪んだり、ちらついたりすることを体験してもらうために、このような構成にしている。

※2 ワークシート3について・・・読みにくさを想像してもらうために、このような資料を使っているが、ディスレクシアの人の見え方が、必ずしもこのようなものだとは限らない。

5 進め方（展開例） 50分

時間	学習の流れ（活動・内容）	留意事項	資料など
導入 10分	<p>◆学習の確認（2分）</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動の流れの説明を聞く。 <p>◆アイスブレイキング（8分）</p> <p>「どんなふうに見えるかな」</p> <p>①ワークシート2</p> <p>1～2の図がどのように見えるか、まず個人で考え、グループで意見交換をする。</p> <p>②①について、全体に発表して共有する。</p> <p>③まとめの話を聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> 活動の流れを簡単に説明する。 ワークシート1を配付する。 <ul style="list-style-type: none"> 4人程度のグループで行う。 ワークシート2を配付する。 <p><見え方></p> <p>1 黒い部分の上と下を隠すと「ココロ」という文字が見える。</p> <p>2 A…白の交差点部分が暗く見える。 B…白丸の中に黒いものが光って見える。 C,D…図が動いたり、ゆがんで見えたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート1 ワークシート2
<p>・見る位置や角度、焦点の合わせ方で違うものが見えることに気づく。</p> <p>・錯視によって、人間の目（脳）は実際とは異なる見え方をすることがあることを知る。</p>			

展開 25分	◆アクティビティ (25分) 「どんなふうに見えるかな」 ①次の枠内の説明を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート3を配付する。 ・次の枠内の説明をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート3
	<p>知能や、聞いて理解する能力には問題がないとしても、読み書きに特に困難を示す発達障がい的一种に、発達性ディスレクシアがある。練習しても音読ができないとか、音読ができたとしてもスピードが遅いとか、漢字や仮名の形を思い出すことが難しい場合もある。見えた文字を音に変換する情報処理が大変なので、文字が増えたり小さくなったりしたときに、ストレスで歪んだり線に見えてきたりすることもある。</p> <p>このワークシートに掲載されているものはディスレクシアの人の見え方の一例である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・このような見え方の子どもが困ることはどのようなことか考えさせる。 ・本人との関わり方や授業づくり、教材づくりについて考えさせる。 ・本人と相談しながら、より良い方法を検討していく姿勢が大切であることを確認する。 	
まとめ 15分	◆まとめ (15分) ①参考資料をもとに話し合う。 ②まとめの話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料を配付する。 ・下枠内のまとめを読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参考資料
	<p>発達性ディスレクシアについて学んだが、他にも、文字が増えたり小さくなったりしたときに、ストレスで歪んだり線に見えてきたりすることもある。また、初めは普通に見えていても、読んでいるうちに重なってくる、団子みたいになってくる、黒い棒のような線になってくるという子どももいる。</p> <p>ディスレクシアがある人の困難さに気づき、共感しつつ、具体的な支援ができるのが教員(担任)である。教員が日々の学習指導の中でディスレクシアに気づく主なものとしては次のことが挙げられる。</p> <p>○音読の困難、文字(漢字・平仮名・片仮名) ○仮名の覚えにくさ(ローマ字アルファベットを含む) ○漢字の困難(読字、書字・習得と定着) ○九九の暗唱(数唱)困難 ○黒板書写の困難、書写速度の遅さ ○ワーキングメモリの問題(短期記憶の困難)など</p> <p>教員は、練習すれば誰でもがスラスラ教科書が音読できるようになる、漢字を繰り返し練習すれば覚える、といったことが全く当てはまらない児童・生徒が、クラスの35人中2~3人は存在するという事を知り、状況に応じて選択式のプリントにしたり、ひらがなを使っの回答をOKにするなど、具体的な配慮をしていく必要がある。</p>		
	◆「振り返り」に記述する。		

<参考資料など>

北岡明佳の錯視のページ(立命館大学・総合心理学部/文学部 心理学専攻 教授)

『子どもの「学び難さ」に気づく』 どんなふうに見えるかな

アイスブレーキング

1

2 A

B

C

D

アクティビティ

・ワークシート3の文章を読んでどんな気持ちになりましたか。

・当事者の児童・生徒とどのようにかかわっていくか考えましょう。

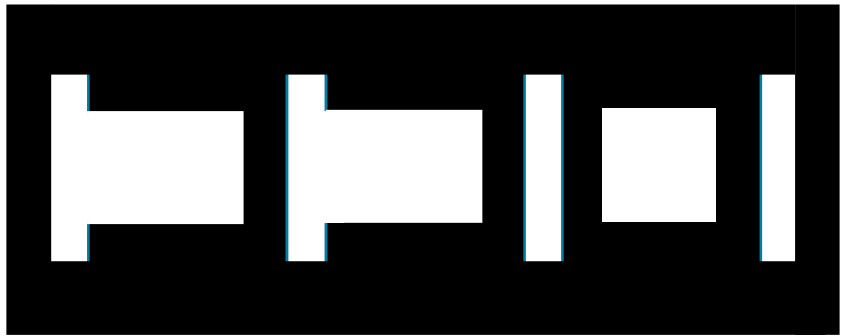
振り返り

・今日の活動をとおして考えたことや、気づいたことを書きましょう

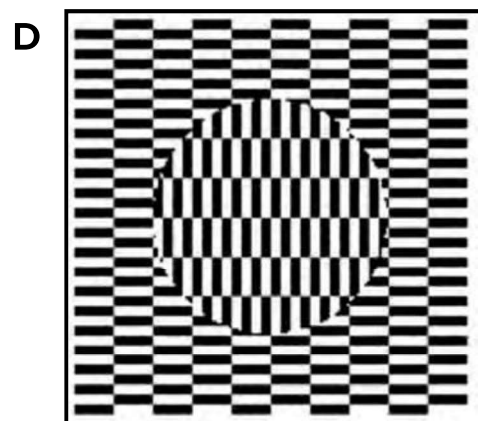
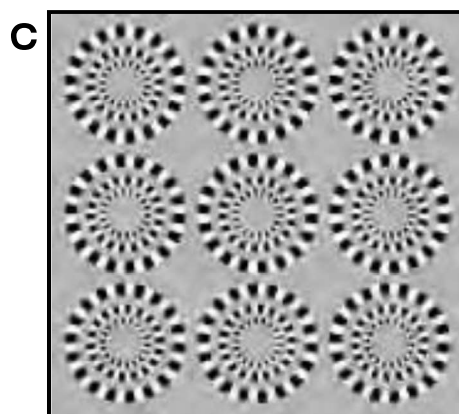
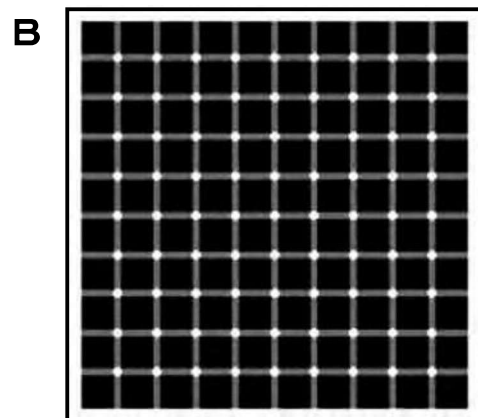
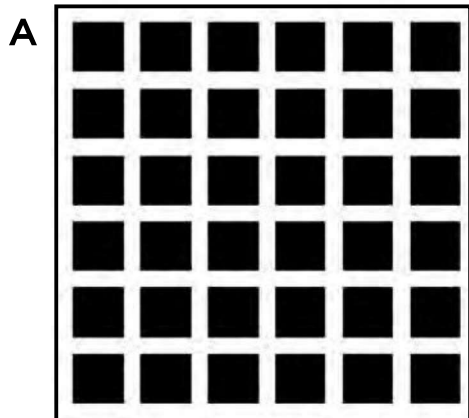
『子どもの「学び難さ」に気づく』 どんなふうに見えるかな

次の1～2の図を見て、グループで意見を出し合ひましょう

1 何が見えますか。



2 A～Dの図がどのように見えますか。



『千代子の「学び難さ」について』 みんなのついでに見えるかな

①～⑤の文章を読んで、感じたことを話し合ってみよう。

①

むかしむかし、あるところに、おじいさん
とおばあさんが住んでいました。
おじいさんは山くしばかりに、おばあさん
は川へたくさんに行きました。

②

むかしむかし、あるところに、おじいさん
とおばあさんが住んでいました。
おじいさんは山くしばかりに、おばあさん
は川へたくさんに行きました。

③

むかしむかし、あるところに、おじいさん
とおばあさんが住んでいました。
おじいさんは山くしばかりに、おばあさん
は川へたくさんに行きました。

④

むかしむかし、あるところに、おじいさん
とおばあさんが住んでいました。
おじいさんは山くしばかりに、おばあさん
は川へたくさんに行きました。

⑤

むかしあるところに、おじいさん
とおばあさんが住んでいました。
おじいさんは山くしばかりに、おばあさん
は川へたくさんに行きました。

発達性ディスレクシア（学習障がい）～教室で求められる対応～

ディスレクシアの児童・生徒は、公立小・中学校では「35人」のクラスに、2～3人

ディスレクシアの子ども達は、他の多くの人と同じように文字が見えている。見えているが、見えた文字を音に変換する情報処理が大変なので、文字が増えたり小さくなったりしたときに、ストレスで歪んだり線に見えてきたりすることがある。

読み書きの特徴のチェック表

以下の項目の多くに当てはまる場合、発達性ディスレクシアである可能性が高いと考えられる。

「読みの特徴」

- 「ひらがな」、「カタカナ」を読み誤る
- 促音「きって」、拗音「ちょ」、長音「こうてい」を誤る
- 助詞部分、語尾、形や発音が似ている文字（「ツ」と「シ」、「b」と「d」など）を誤る
- 漢字を読み誤るもしくは、読めない
- 文章の読みが「たどたどしく」時間がかかる

「書き」の特徴

- 小学校2年生以上で、「ひらがな」、「カタカナ」を書き誤る
- 文章を書く際、「ひらがな」の使用が多い
- 「口頭」で言えることを、同じように書くことが難しい
- 文字を「書くこと」に時間がかかる
- 漢字が「覚え難く」、覚えてもすぐに忘れる
- 漢字を「書こうとする際」、わからないという反応が多い
- 漢字の形態が、15度以上傾く傾向がある
- 漢字の構成要素間の間隔が広い文字を書く傾向がある

「読み・書き」の特徴

- 板書された文字を正確に写せない、写すのに時間がかかる

教室で求められる対応

配慮してほしい点（さりげなく全員に、または、本人と事前に相談）

- ・プリントにふりがなを振る
- ・テストの読み上げ
- ・テスト時間の延長

※読みこなす時間が足りない場合

- ・事前に資料を渡す（読み上げ可能なテキストで渡す）

※板書の負担、書く提出物の負担を減らすために

- ・資料を渡す
- ・穴埋め式
- ・撮影OK
- ・ワープロ（タブレット）
- ・ひらがなOK

教科書の音読や算数（数学）の問題を声に出して解くといったことにストレスを感じている子がいるということ、練習すればスラスラ音読できるようになる、漢字を繰り返し練習すれば覚えるといったことが全く当てはまらない子がいるということを知っておいてほしい。

<参考資料など> 「NPO法人 発達サポートネット バオバブの樹 ことばと読み書き すーん」

令和元年県立学校人権教育研修講座研修資料より